

試行錯誤させて鍛え、 変化に向き合う「主体性」を育む

愛知県立時習館高校・石川県立金沢錦丘高校にしぎがおか・大阪府立北野高校

グローバル化、デジタル化が進む社会の中で、高校は求められる人材像をどのように捉えているのか。そして今、指導はどう変わろうとしているのか。3校の校長が次代を担う人材育成の要諦を語った。

多様な価値観の中で 普遍的価値に迫る姿勢を育む

楠野 グローバル化した社会では、コミュニケーションツールとして英語が使えなければいけないのは当然です。しかしそれ以前に、人と議論する力を身に付けておかなければいけません。

林 今後求められるのは、双方向のコミュニケーションであり、自分のことを発信する力です。だから自分のことをきちんと知ることがとても重要です。英語力だけでなく、日本人としての自信や誇りをしっかりと持たないと、海外の人々とは渡り合えないでしょう。自分は何者でどう

いう価値観を持っているのかを自身自身が理解していないと、相手の価値観を受け入れられませんから、生徒の自己理解、アイデンティティーの確立も教師は支援しなければいけません。

表 新しい学習指導要領には、「異文化理解」や「持続可能な社会」という言葉が出てきます。自己理解に加え、それぞれの国や地域の多様性を理解した上で、今後の国際社会を考える姿勢が、私たち教師も含めて欠かせないということでしょう。

楠野 グローバル化には国際競争のし烈化だけではなく、国際協調の進展という側面もあります。協調は、お互いの違いを認め、個性を尊重し

た上で、一緒に何が出来るかを考える行為です。教師はその点を最も考えないといけないのではないのでしょうか。我々は、個性を尊重しよう

と言いながら、往々にして生徒に均一性を求めてしまいがちです。均一な生徒集団は教師にとっては扱いやすいでしょうが、それでは教育がグローバル化の流れに逆行してしまいます。

林 お互いの価値観の違いは認め合いつつ、人をいたわる気持ち、人道的な行動など、国境を越えて共通する価値を追求していく姿勢が生徒には必要です。そうした人材を育てないと、日本は国家として国際社会から尊敬されないでしょう。人道的

な視点で国際社会を見つめる力を、日々の教室での対話の中で養うことが大切です。

表 その国その地域で何をいたわりと思うのか、微妙に違うこともあるでしょう。普遍的な価値を求める意思と、「もしかして違うかもしれない」という謙虚な姿勢を育むような対話でありたいと思います。

デジタルを生かす 教師の力量が問われる

楠野 本校では、電子黒板を主に英語と理科で活用しています。スピードと情報量の面でメリットが大きいですね。今までは授業では出来なかった実験映像を見せるなど、知識

を深めるのに役立つところもありま
す。ただ、教える内容によって向き
不向きがあるでしょう。

林 本校は、2009年度からイギ
リスのパブリックスクールであるセ
ント・ポールズ校と交流を続けてい
ます。同校の授業を見て驚いたのは、
デジタル化が進んでいることです。
電子黒板を使い、生物の細胞分裂や
動物の形態機能などを動画で紹介す
る授業は効率的で、理解もしやすい。
ただ、教員が汗をかきながら板書し
たものには、生徒の感性に訴える力



愛知県立時習館高校
校長 **林 誉樹**
はやしたかき

教職歴35年。同校に赴任して4年目。
刈谷高校、豊橋西高校、豊丘高校などを
経て、現職。理科。

があるのも事実です。授業でデジタ
ル技術を活用するメリットは確かに
ありますが、教員が生徒に生き生き
と伝える感性、感動も、教育には必
要です。

表 物理や化学では、内容が抽象
化するにつれて、授業についてこ
れない生徒が出てきますが、動画や
3次元表現を取り入れることで、生
徒が理解しやすくなるものもあるで
しょう。その一方で、一見遠回り
に思えても、我々は自分の経験を積
み上げていくことで学びを獲得して



石川県立金沢錦丘高校
校長 **表 純一**
おもて・じゅんいち

教職歴37年。同校に赴任して
3年目。小松高校、金沢桜丘高校、輪島高校などを
経て、現職。国語科。

いることも忘れてはいけないと思
います。デジタル化が出来るもの、出
来ないもの、してはいけないものが
あるということをしつかりと踏まえ
て、授業の組み立てをしないと
ません。デジタル化が進む中で、ど
ういうバランスで本物の体験をさせ
ていくのか、その加減を考えた授業
の組み立てが重要でしょう。

楠野 教師の側の力量がますます求
められますよね。デジタル化は、生
徒の活動を豊かにし、力を引き出す
可能性を秘めているだけに、我々



大阪府立北野高校
校長 **楠野 宣孝**
くすの・のぶたか

教職歴34年。同校に赴任して2
年目。西浦高校、住之江高校、四條畷（しじょう）な
わて）高校などを経て、現職。理科。

各校について

愛知県立時習館高校

◎2008年度からSSHの指定を受
け、理数教育の充実を図るとともに、イ
ギリスのセント・ポールズ校との交流を
始めとした国際交流にも力を入れている。
12年度入試では、国公立大は、東京大、
名古屋大、京都大、大阪大などに155
人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲
田大、南山大などに延べ196人が合格。

石川県立金沢錦丘高校

◎2004年度に「石川県立金沢錦丘中
学校」を新設し、併設型中高一貫教育を
開始。現在、石川県の公立学校では唯一
の中高一貫校。12年度入試では、国公立
大は、東京大、金沢大、富山大、京都大、
大阪大などに142人が合格。私立大は、
同志社大、立命館大、関西大などに延べ
433人が合格。

大阪府立北野高校

◎2002年度から06年度までSSHの
指定を、11年度からは大阪府教育委員会
より「進学指導特色校」の指定を受ける。
12年度入試では、国公立大は、東京大、
京都大、大阪大、神戸大などに235人
が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、
同志社大、立命館大などに延べ669人
が合格。

はその活用方法をしっかりと勉強しなければいけません。生徒はPowerPoint[®]などを使ってプレゼンテーションをするのは得意ですし、教師にはとても出来ないような見事な発表資料を短時間で仕上げてきますから。

林 生徒の構成力、表現力は素晴らしいですね。彼らのそうした力を、もっと伸ばしていきたいと思いません。

試行錯誤の中で 主体性が生まれてくる

楠野 一方で、今の生徒は指示待ち、マニュアル型だといわれます。生徒に主体性を育むための仕掛けを、学校全体の課題として考えないといけないでしょう。

表 生徒自身の目で主体性や自立の度合いが分かるような仕掛けが必要だと私は思います。例えば部活動でも、監督に言われるままの練習をす



失敗を重ねる中で
どうやって学ぶかを考えさせ
主体性を養いたい



生徒に負荷を与えることは
私たちの社会全体にとって
意味のあることです

るのではなく、強みや弱点を生徒たちが自ら分析して、その上でどのような練習が必要かを自分たちで考えるようにする。事実、近年の本校はそうすることで大会成績も徐々に向上し、主体性の大切さを目に見える形で生徒は実感しているはずで、生徒主体の取り組みですから、失敗もあるでしょう。でも、失敗を恐れる必要はありません。ただし、失敗しっぱなしではなく、失敗からどうやって学ぶかを教師が考えさせることが必要です。そうして失敗を重ねる中で、時に成功し、小さな達成感が味わえれば、それが次の取り組みへのモチベーション、主体性へとつながるでしょう。

楠野 部活動でも勉強でも構わない

ので、生徒に試行錯誤させることが必要だと私も思います。特に、グローバル化が進むほど、社会には正解がない問い、いくつも正解があるような問いが現れてくるはずで、これよりのかと迷いながら、それでも勇気を持って「自分はこれで行く」という決断は、失敗を重ねる中で育まれるものだと思います。

林 私たち教師は、失敗を恐れる生徒、恥をかくのを嫌がる生徒を、今の生徒だと諦めずに、正面から向き合って鍛え、育てていくことをもっと意識しなければなりません。

表 実は本校では、数年前までは予習よりも復習を重視した指導を行っていました。もちろん、これは多様な生徒の現状に即した判断です。しかし、復習を重視する指導では、生徒はほとんど失敗を経験しません。そこで近年、予習を重視する指導に切り替えたのです。教師に教わる前に自分の力で理解しようと努力する

ことで、合っていれば達成感を味わい、間違っていればなぜ間違ったのか、どう勉強すればよかったのかを考えるはず。そういう仮説を校内で共有し、取り組んでいます。

林 私は常々先生方に、生徒に負荷を与えてほしいとお願ひしています。生徒を余裕のある状態にしたいよう、各教科が自信を持って生徒に課題を与え、どんどん勉強させてほしいのです。そうすれば、生徒はどうしたら与えられた課題をこなせるかを考えるはずで、新入社員が早々に辞めていくのはどの企業でも問題になっていますが、それは社会全体が負荷を与えずに子どもたちを育ててきたからではないでしょうか。高校時代に大きな負荷を与えられて失敗し、そこから立ち上がる経験をさせることは、社会全体にとって意味があることだと思います。

楠野 私は、高校時代は非常に代謝量の大きい年代だと思っています。人生の中で、たくさんの物事をこなせる能力を備えている年代なのです。だからこそ、私も彼らをもっと鍛えたいと思います。彼らは大人が考える以上に、もっと多くのことが

出来るはずです。

変化する社会でも 伸び続ける生徒を育てる

林 私は、高校は知識だけを与える授業ではもはやダメだと考えています。与えた知識をどう使うかまでを



授業で体験させるべきです。本校の英語の授業では、発表や対話に重きを置き、文法などは極力家庭学習で進めさせています。その結果、生徒の家庭での英語の勉強時間は確実に増えています。それは自分でしっかり準備しないと発表できないからです。必要性があれば、生徒は自ら学び始めるのです。

楠野 知識の活用という意味では、グループワークやプレゼンテーションは、とても価値のある学習です。生徒同士の議論では、相手が考え込んでしまうような厳しい質問をぶつけ合っています。私にはそれが、生徒がお互いに鍛え合っているように見えます。その経験の中で、生徒は「次はどうすればもっとうまくいくか」を考えるようになるのです。

林 「チョーク&トーク」と呼ばれる日本の授業に対して、イギリスではインタビュ、対話が中心です。双方向型ですから、教師も力量が求められます。生徒も教師もおのずと勉強するようになるのです。

表 そうした負荷を与える授業、発



生徒の自立を促し 社会に貢献できる人材に育てる、 それが高校教育の目的です

表や対話を重視した授業が、本校にすぐに定着するのだろうかという思いは正直あります。しかし、うちには無理だと背を向けず、勇気を持って取り組まないといけない時代なのだろうとも思います。教師こそもっと勉強し、生徒の疑問に向き合い、知的な好奇心を広げる努力をしなければなりません。

楠野 高校教育の目的は、生徒の自立を促し、社会に貢献できる人材に育てることです。しかし、実際にはこれまでそうした目的を強く意識した場面が、学校には多くはありませんでした。しかし、ボランティアの分野で活躍する卒業生の講演会などでは、生徒たちは強く関心を示し、積極的に質問をします。私はその様子を見て、勉強や部活動に加えて、こうした社会に触れる場をバランスよく生徒に提供したいと思いまし

た。

表 新しい学習指導要領にも、各教科の視点から持続可能な社会について考えるという趣旨の文言が盛り込まれています。現実の社会が直面している課題を授業の中で考えさせ、学問と現実社会の課題が結び付いていることを生徒に伝えられれば、今学ぶこと、そして将来働くことも社会貢献なのだど理解できるのではないのでしょうか。

林 進学校として、生徒が志望校に合格できるようにすることは、私たちの重要な責務です。しかし、社会が変わる中で、それだけではいけないのだと多くの教師は既に気が付いています。大学に入ってからでも、さらに社会に出てからも伸びる人材を育てることを私たちは意識して、生徒を鍛えなければいけない。私は今、強くそう思います。